

民生常任委員会記録

日時 令和8年8月25日（火）

場所 第二委員会室

午後 3 時 4 5 分 開 会

○後藤 啓委員長 それではただいまから、民生常任委員会を開会いたします。

本日の欠席通告者は、佐藤猛委員です。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

始めに、本日の委員会の趣旨についてご説明いたします。

先ほどは、コミュニティ振興会事務局の皆さんと意見交換を行いました。現場の声をお聞きして、自治会に限らず地域コミュニティ全体のより切迫した課題の発見や、課題解決のヒントとなり得る気づきがあったのではないのでしょうか。

まずは前回の委員会と同じくこの気づきを共有し、改めて酒田市における地域コミュニティの課題および解決に向けた糸口について整理したいと思います。

1 政策提言「人口減少下の地域コミュニティ～安心して暮らしていける地域へ～」について

（1）意見交換会の振り返りと意見の整理

○後藤 啓委員長 お1人ずつ感想も交えつつ、ご意見を多くお伺いしたいと思います。

佐藤弘委員。

○佐藤 弘委員 今日話を聞いていて思ったことがあります。というのは、今日参加している人たちは意識が高い人たち。自分たちのコミュニティを何とかしようという強い思いがある。この人たちがいる地域はこの人たちが中心になって動いているのだらうと。課題はその人たちがいなくなったとき、またはその人たちの後継者をどうやって育成していくかということだと思います。ですから、最後は人になるのかなというふうに思います。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。ガンバリーニ杏子委員。

○ガンバリーニ杏子委員 お話を聞いてる中で2点感想があるんですけども、皆さん結構イベントをいろんな地域で頑張っていらっしゃって、若者を取り込むイベントを頑張って企画してますっていうときの、若者が何歳ぐらいなのかなっていうのを、質問すればよかったんですけど、ちょっと気になったところです。というのは宮野浦さんですと、子ども会が共催で入ってますということは子どもなのかなっていう。若者っていうのも、どっちかといえば子ども、その親も含むんでしょけど、なのかなと思いますし、港南フェスですと、高校生とか大学生20代ぐらいの人を狙ってるのかなとか。その若者の定義が皆さんの中でどれぐらいの年齢層なのかなっていうのが気になったところではありました。というのともう一点、今の佐藤弘委員がおっしゃったこととちょっとかぶるんですけども、皆さん地域コミュニティをどうにかしようと思って頑張っていらっしゃる方々なので、その視点も大変大事だとは思いますが、逆になぜ地域コミュニティとか自治会に入らないのかっていう人たちの意見も、どうにかして例えばですけどさかボスで匿名で、なんで自治会に入らないんですかみたいなアンケートのようなものができたら、逆の視点からの意見も参考になるのかなと思った次第です。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。後藤仁委員。

○後藤 仁委員 コミセンじゃなくて自治会なのかもしれませんけども、自治会がやっている仕事っていうのは、もう伝統的な話で逆に言ったら、お忙しい若者がイベント的な、スポーツ的なものはいいですけども、無理に参加してもらう必要もないのかなと。うちの地域を見ますと、イベントとかそういうものをやりますと、運動会でも文化祭でも、保育園児、小学校、中学校に通う子どもがいる人たちはもう参加率が非常に高いです。そういう場合と、活動等地域参加というのは別物なのかなというふうに思います。

今日の中で、市がやらなければならない情報の伝達、回覧物とか赤十字だとか、そういうものについては、極力市でやる方向へ。この間10月の視察先の資料を見ましたら、そういうことに取り組んでいる自治体も入っているようでしたので、ただそのときに、先ほど松陵の進藤さんも言ってましたけども、さかたコンポのお話してましたよね。酒田市全体として24%だったか。総務の方に資料出てましたけども、24%ぐらいの加入率、これは属人、人ですので、この数字が高いのか低いのか私はわかりません。例えば、うちのように大人が4人いる家族であれば、その中の1人が入ってればその一家は情報が手に入る。回覧板のようにもう誰も見ないで回されるよりも、このさかたコンポをもっとグレードアップして、ただコミセンとか自治会のイベント全部よこされたらこれもしんどいなというふうな思いもありますので、そこら辺は何か今のいろいろな手段がありますから、回覧板のない酒田市というのも一つの発想かなと、今日の話聞いて思いました。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 どうなんだろうという感じ。始めから言えばやっぱりその地域っていう考え方。コミュニティというそこに入る前に地域っていう考え方をどこに置くかで全然変わってくるっていうこともあるんで、その辺どうすればいいのかなっていうような感じはあります。先ほど後藤仁委員から言ってるように、コミ振がめちゃくちゃ多いし、こっちはそんなに多くない。それを一体に考えるっていうのはなかなかできないような感じがしますし。ある意味、コミ振に変わる前の、旧酒田で言えば公民館があった時代みたいな感じに思えるところもあるわけですけども、どのぐらいが適当とか、適正っていうのもあり得ないだろうし、持続可能な地域をつくるために、じゃあどうすればいいのって、それだって皆さんいろいろ話をしましたけど、その地域の狙い目が違うだろうと。その中で共通項がどれなのかっていうことを見定めて、我々委員会とすれば、当局に対してこういうふうには是正した方がいいんじゃないかというような提言をしていくべきではないかと思います。

全て取り上げることが当然無理があるだろうし、その辺はやっぱりもう少し皆さんとの話し合いの中で詰めていかないといけないのではないかと思います。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。市村浩一委員。

○市村浩一委員 今もずっとお話出てきたように、今日のお話を聞いて、今日はコミセンの事務局長さんがちょっとお集まりでしたけど、やはりその地域その地域でコミセンが中心なのか、それとも自治会が中心なのかという、地域によってまた違うんだというふうに思います。私が住んでいるみずほは亀ヶ崎コミセンっていうのはありますけども、多分やっぱり自治会を中心に皆さん物事を考えていて、その自治会に介入するどうのこうのが先で、コミセンは二の次のような気がします。だからそれは地域で違うんだというふうに思いますね。ですので、そういった部分を今も高橋千代夫委員、後藤仁委員もありましたけども、そのエリアエ

リアで関心といいますか、状態が違いますので、そこをどうやって見分けていくのかというところが、ちょっと多いんだろうというふうに思います。ですので、今日はちょっとコミセンの方が中心でしたので、そういったコミセンのあり方ですとかその悩みが中心でしたけれども、今日集まっていた方のエリアとしては、旧市街地のコミセンの方がいなかったのがちょっと残念かなと。琢成ですとか浜田ですとか、そういった街中のコミセンの方の意見を聞けなかったのは残念だったなというふうにして思います。そしてもう一つは今日いろいろお話聞きますと、やはり事務員さんの問題ですとか、人員の問題ですとか時間の問題ですとかいろいろやっぱり行政が自治会もそうですけども、丸投げしているところをちょっともう少し整理していただいて報酬的に与えるところは報酬的に与えて、手立てをしますとか、さっきの回覧板をどうするんだとかというような形の中でやはりもう一度その地域に、地域といいますか自治会・コミセンに投げて行政のスタンスをちょっと見直さなければならぬんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。松本国博委員。

○松本国博委員 今日いろいろな勉強というかご意見等々いただきましたが、ちょっと時間が足りないというか、終わり際ちょっとお話をさせていただきましたがせっかくですので、元々思うことがあったと思うので、これを機会に今日言えなかったものを出していただきたいというのがあります。それでですね、やはり前にも申し上げましたが、提言に繋げる会なので、要は市がどうするかなので、その部分を忘れずというのか、念頭に置いてやり取りしなければならないのかなということです。だから、コミセンの方々に何かしてほしいじゃなくて、酒田市が何をするかっていうのをこれから今日の意見から掘り下げていかなければならないのかなと思ってますけれども、課題等々は今日のメンバーの方々も、実はもう多分まちづくり推進課あたりには言ってるはずなんですね。だけれどもあえてこうやって集められて、話を聞くっていうことは、提言っていうのはどういう方向で成就していくのかなっていう、今日来た方々はそこら辺までわかってたのかどうかっていう。こういう話し合いの場はずっとやってきてるんですけどねっていう気持ちでいて、今日もまたその延長なのかなと思ってるのか、あるいは、いや、提言してくれるんだったらきっとより良くなるんだろうなという期待を込めてまできているのかちょっとわからなかった部分なんですけども、ぜひ議会から提言を出すのであれば、ぜひこれまでならなかった部分をぜひ成就させていただきたいというのは、我々の仕事でありますけど、そこはこれからだと思いますけども、皆さんと頑張っていきたいなと思います。

やはり政策提言の題名からすると、人口減少下でも安心してやれるのか、いや、人口減少下から反転してその賑やかさを求めていくのかっていう、今日もそれぞれ違うかと思いますが、その部分もどうやって記載していくのか。片方によるのか、それとも両方、減ってもやれるし、増やしていかなければならないということでやるのかっていう、もうそろそろまだまだ序の口の部分なんですけども、思い描くゴールも見据えながらいろいろ、例えば自治会に入っていない方を呼んだりするだったり、なぜ呼ぶのかっていう部分を、ちょっとゴールを見ながらやっていくと。近道するわけじゃないんですけども、やはり時間も限られてるので、そこら辺描きながら進んでいっていただきたいなと今日感じました。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。

私の方からは、今日お話聞いて、事務局体制がやはり大変な状況かなという。特に松山の

コミ振の方は大変なようでした。あと若者の事業参加とか、集まるような事業をそれぞれ考えて工夫していらっしゃるようですけども、それぞれどうしても子どもが小さいうちは親も参加するんですけども、それ以降参加しないという。それはどこもそうなんでしょうけども、そこら辺がやはり課題かなというようなことを感じました。あと私の方の大沢コミセンのイベントなんかでも、若い人が企画してやるんですけども、その企画に乗ってこないというような実態もありますので、そんなことも踏まえて持続していくような事業を考えるのはやはり大変なのかなと思います。どこのコミセンでも企画力っていう話はしてましたけれども、なかなか素人でどこまでできるのかというのは限界があると思いますけども、そこら辺も含めて、もっと考えていく必要があるのかなと。あと市の業務が負担というようなところも結構ありましたので、そこら辺も軽減できるようなところがあればというようなことを感じました。以上です。

それでは、前回の委員会が出された意見をまとめましたけれども、これが資料の方ありますけども、概要ということで出しておりますけども、「若者の参加・関心とコミュニティとの接続」とか、「地域共通の関心事・必要最低限の役割（防災・生活基盤）と参画意識の醸成」、「持続可能性の限界を見据えた「今住んでいる住民」本位の地域づくり」視点というようなことがありました。今回の意見交換を通して、さらにこういった課題が見えてきたとか、この課題が重要だというようなご意見はありますでしょうか。

暫時、休憩します。

午後 4 時 5 分 休 憩

午後 4 時 11 分 再 開

○後藤 啓委員長 再開いたします。

高橋千代夫委員。

○高橋千代夫委員 中学校区っていう括りではなくて、当局はこれからのコミュニティ振興とか地域づくりをどう考えていくかっていうことまで聞かないと。我々コミ振のことをやるわけじゃないでしょう。そこはちょっと間違えないようにしてもらわないと。

○後藤 啓委員長 了解しました。ありがとうございます。

他にございませんか。

（ な し ）

○後藤 啓委員長 それでは皆さんから出された意見を整理して、後日また共有したいと思います。それをもとに行政視察先への質問事項についてご相談したいと思いますので、ご承知おきください。

次に、2番のその他に移りますけども、委員の皆さんから何かございませんか。

（ な し ）

○後藤 啓委員長 ないようですのでこれもちまして、民生常任委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。

午後 4 時 13 分 閉 会